

---

# 「第10回・11回特発性心室細動研究会」特集号発行にあたって

---

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) 代表幹事  
筑波大学医学医療系循環器内科教授  
青沼和隆

本研究会の足掛かりである「特発性心室細動を考える会」が発足してから、早15年。Brugada症候群を含む特発性心室細動は、一見健常に見える成人においても発症する致死的不整脈であり、当時、その対策が急務とされていた。しかしながら、我が国における特発性心室細動の成因・病態の解明、診断および治療に関する方針はまったく定まっていなかった。そこで、手弁当で有志が集い、各自症例を持ち寄って意見を交換した。暗中模索で熱い議論を交わした情景が、つい昨日のことにように思いだされる。その1年後、全国の医療機関で共同研究を行い、成因・病態の解明や治療・予防に関する指針を検討することを目的として「特発性心室細動研究会」が設立、現在では69施設・730症例超が登録されている。これまでご協力いただいた医療機関および先生方には、この場をお借りして御礼申し上げます。

本特集は、2012年および2013年に大手町サンケイプラザで開催された、第10回・11回特発性心室細動研究会における発表を記録したものである。これまでも本研究会の記録集を『心電図』のsupplementにて刊行しているが、いずれもその時点での新たな知見が数多く掲載されており、治療や予防に関する方向性が示されている。本特集および過去の記録集が、特発性心室細動に関する理解を深める一助となれば幸いである。

2016年3月吉日